

仕様書

この仕様書は、独立行政法人 国際協力機構 東京センター(以下「発注者」という。)が実施する「東京センター入退館管理システム導入工事」に関する業務の内容を示すものである。本業務の受注者(以下、「受注者」という。)は、この仕様書に基づき本件業務を実施すること。

1. 現状及び導入の目的

当センターは研修員が一定期間日本で研修を受けるための研修・宿泊施設として、1985年に開設された。建物は管理棟、宿泊棟、別館に分かれている。

今回、研修員の安全管理、フロント・警備業務の効率化の点から、入退館管理システムを導入し、研修員、職員、一般来訪者の入退館の適切な管理を行うことを目的とするもの。

2. 設置工事概要

(1) 対象範囲

本システムの構築・運用に必要な以下のものを設置の対象範囲とする。

- ① システム構成機器及びソフトウェア
- ② 必要な設置工事(電源・配線等含む)
- ③ システムを運用する者への機器・ソフトウェアの使用法説明
- ④ 作業管理・品質管理等の管理

(2) 設置期間

本システムの設置期限は、契約日～2020年3月31日までを予定とする。

施工日 原則平日昼間とする。やむを得ない場合、平日夜間、土日祝日も可とする。

(3) 設置場所

本システムの設置場所は、以下の通りとする。

東京都渋谷区西原 2-49-5

独立行政法人国際協力機構 東京センター管理棟、別館

(4) 設置に関わる納品物

受注者は、以下の納品物について協議を行い作成し、指示に従い納品すること。

- ① システム一式
- ② 各種システム設計、設定書
- ③ 各種操作マニュアル
- ④ ゲート設置及び付随工事に係る完成図(配置図、系統図)

※上記について、電子媒体、紙媒体を納入すること。

(5) 設置工事について

- ・産業廃棄物運搬処理については、関係法令に基づき適正に行うこと。
- ・使用する水・電気は、無償提供する。
- ・工事関係者用に駐車場を1台無償で用意できる。
- ・施工にあたり事前に担当者と綿密に協議し、騒音・振動・異臭等の発生がされる作業及び資材等の搬出入は、担当者の承認を得ること。
- ・工事期間中、当センター関係者、利用者の安全には十分注意すること。これらとの間でトラブルが生じた場合は、警備を通じて担当者に連絡して解決を図ること。
- ・工事関係者が現場以外の施設内に立ち入る際は、担当者の承認を得ること。
- ・当センターの業務により、作業実施の制約が発生する場合がありますので、施工に当たっては必ず事前に担当者と調整し相互に協力して進めること。
- ・既存建物、物品等に損傷を与えた場合は、担当者に報告のうえ、復旧、修理すること。
- ・工事施工に関して、本仕様書の記載が無い事項は、国土交通省大臣官房官庁営繕部監修「電気設備工事標準仕様書」最新版に準拠すること。
- ・作業実施にあたっては落札後速やかに作業計画を策定し、監督職員の承認を得ること。
- ・作業計画変更の必要性が生じた際、変更理由及び変更内容共に、修正された作業計画を監督職員に届け出た上、承認を得ること。
- ・詳細については、監督職員の指示によること。

3. 入退館管理システム

(1) システム概要

- ① 管理対象の出入口に非接触カードリーダを設置し、入退館の制限を行うこと。
- ② 非接触カードリーダが読み取ったIDを制御盤に蓄積されたIDと照合し、有効カードであるか否かの判別を行い、有効な場合のみ扉（電気錠、自動ドア等）の解錠制御を行うこと。
- ③ クライアントPCから状態監視やマスタ管理を行うこと。
- ④ 非接触カードリーダは、バッテリー装置により停電時にも20分以上の利用を可能とすること。
- ⑤ 現在、執務室電気錠システムで使用しているFelicaで通行できるようにすること。その場合、カード情報の開示は可能である。
- ⑥ ICカードはFelicaカードを新規発行とし、予備を含め700枚準備すること。
- ⑦ セキュリティの観点から、履歴は改ざんできない形式での保存が行えること。
- ⑧ エラーカード（通行不可等）をクライアントPCに接続されている登録用リーダに読み取らせることで、原因の特定・復旧処理が即時に行なえること。
- ⑨ ソフトウェアに係るサポート、ライセンス更新費用について、5年間分、積算に含めること。

(2) 管理機能

- ① 状態監視

(ア) リアルタイム監視

システムの稼働状態や施錠状態、異常などをリアルタイムで監視し、変化が起きたとき、クライアントPCで状態を確認できる。

(イ) 扉状態監視

(a) 施錠状態を監視し、クライアントPCで状態を確認できる。

(b) 扉開超過監視として、非接触カードリーダーを使って一時解錠し、所定時間以上開放した場合、非接触カードリーダー本体が日本語音声またはブザーによる警告を発生し、同時にクライアントPCでも状態を確認できる。

(c) 異常開監視として、施錠中の扉がこじ開けられた場合、非接触カードリーダー本体が日本語音声またはブザーによる警告を発生し、同時にクライアントPCでも状態を確認できる。

(ウ) 不正アクセス監視

紛失カードや無効としたカードが使用されたとき、非接触カードリーダー本体が日本語音声またはブザーによる警告を発生し、クライアントPCでも状態を確認できる。

② 個人管理機能

(ア) 個人マスタ管理

(a) 最大登録数

30,000人まで登録可能

(b) 個人情報

個人コード、氏名、発行回数、有効期限、所属

(c) 登録方法

個人マスタ登録は、クライアントPCでの1件ずつ登録または、csvファイルによる一括取り込みが行える。

(d) 紛失登録

紛失カード登録は、クライアントPCで行え、マスタ配信することでただちに適用でき、カード利用を停止できる。

(e) 長期未使用者検索

期間を指定して使用していない利用者リストを表示し、表示された利用者を一括若しくは個別に削除することができる。

(イ) 許可権限登録

(a) 許可権限登録

個人および所属グループ単位で扉およびエリアに入場許可を与えることができる。

(b) 許可権限確認

許可権限内容は画面で一覧を表示でき、csv出力ができる。

(c) 許可権限の取込

許可権限をcsv取込により更新削除が行える。

(ウ) 履歴管理機能

- (a) ログ種別
カード操作履歴、操作履歴、電気錠状態、エラー情報が記録される。
- (b) ログc s v出力
クライアントPCで検索が行え、検索結果をc s vに出力できる。
- (c) ログ保存期間
ログは管理サーバ上に記録され、過去5年分のログを保存可能とする。

(3) 表示機能

- ① リアルタイムモニター機能
PCの画面に、棟ごとに、扉の状態、異常状態を平面グラフィック画面でリアルタイムに表示する。さらに、扉ごとの詳細な施錠状態、エラー情報をリアルタイムに表示する。
- ② 在館モニター機能
任意のエリアに入場している利用者の一覧を表示し、在館状態を自動更新表示する。エリアは指定した複数の扉で自由に形成できる。例えば、あるエリアに複数扉があった場合、これをグループ化し、どの扉から入退館しても正しく在館を表示できる。
- ③ 平面図操作機能
平面図を2倍・4倍に拡大し、拡大した画面をスクロールすることができる。
- ④ 警報発生時に発生場所・警報内容をメッセージ等で明確に表示することができる。

(4) 制御機能

- ① 電気錠制御
 - (ア) PCにて、電気錠モード（連続施錠、連続解錠）の切り替えが行える。
 - (イ) スケジュールで、電気錠モード（連続施錠、連続解錠）の自動切り替えが行える。スケジュールは、平日、土、日、祝日ごとに、時分単位で個別に設定できる。祝日はカレンダーから任意に指定できる。
- ② 接点制御
 - (ア) 汎用接点入力
火報盤、警備システム、一回解錠、連続解錠、カードリーダ操作禁止の信号を受信できる。
 - (イ) 汎用接点出力
解錠信号、扉開信号、警備信号、警報信号、発報信号を出力できる。
- ③ 連動機能
 - (ア) 火報連動機能
火災報知設備より火災信号を受信し、あらかじめ設定した電気錠を解錠させる。
 - (イ) 警備連動機能
警備システムより、警備セット（解除）信号を受信し、カードリーダを使用不可（可能）にできる。
また、カードリーダの操作により警備セット（解除）を行い、警備システムに信号を出力して警備セット（解除）させることができる。

(5) バックアップ機能

① バックアップ

システム全体（OS、アプリケーション、データベース）を、外部記憶装置にバックアップを行い、復元ディスクにより復旧できる。

バックアップは日次で自動的に行われる。

② 復元

外部記憶装置により復元することができる。

(6) システム拡張機能

下記オプションで対応出来ること。

① アンチパスバック機能

入室側と退館側にカードリーダーを設置し、カード操作による入室（退館）を行わなかった場合に、退館（入室）を行おうとしたときに、警告音声を発するか、入室（退館）を許可しないかの対応が行える。

② フラッパーゲート連携

フラッパーゲートとの連携が可能である。

③ 回転ゲート

回転ゲートとの連動が可能である。

④ 生体認証機能

生体認証端末とカードリーダーの2重照合が行える。同一人物の生体認証とICカードの両方が認証できたときだけ入場（退場）できる。

⑤ 危機管理対策機能

災害時に安否確認のために点呼を取る目的で、持出し用PCに常時在館情報を保持し、災害時に持出しPCに蓄積された在館情報を元に、災害集合場所で点呼を取ることができる。

⑥ システム連携機能

入退管理のマスタおよびログを他システム間と連携する機能を有していること。

(ア) 入退管理システムから勤怠用途に入退ログcsvを日次で自動出力する。

(イ) 人事システム等から個人マスタcsvを入退管理システムで自動取込および更新する。

(7) カードリーダー機能仕様

① 入退管理に必要な情報（鍵情報、失効情報等）をカードリーダー装置が送信できる。

② カードは、FelicaまたはMIFAREの読み取りが可能である。

③ 電気錠の施錠、解錠を制御する。

④ カードリーダーはLAN経由で上位システムとデータを送受信する。

⑤ カード認証、電気錠制御エラーなどメッセージを日本語音声またはブザーおよびランプで知らせることができる。

⑥ カードリーダーは省スペース化のため2個用スイッチボックスに適合するサイズとする。

(8) 管理システム機器仕様

入退管理パソコン（フロント、警備室にそれぞれ1台設置すること）

- ① CPU：Core 2 Duo 2.0GHz以上
- ② メモリ：4GB以上
- ③ ディスク容量：80GB以上（必須）
- ④ DVD-ROMのドライブ装置
- ⑤ OS：windows 10

*サーバ設置等を含めたシステム構成でも可能である。

4. カードリーダ設置予定箇所、及び台数

- ・ 宿泊棟入口（フラッパーゲート） : 4台（入場用：2 退場用：2）
 - ・ 別館入口（正面玄関*1、地下1階*2） : 4台（入場用：2 退場用：2）
- *1 正面玄関扉において、電気錠新設かつ既存扉の電気錠対応加工を含めること。
*2 地下1階扉において、既設配線の流用も可。

5. フラッパーゲート

- ・ 宿泊棟入口付近渡り廊下に設置予定とする。
- ・ 2通路、3筐体のセキュリティゲートを設置予定とする。
- ・ 水平なレベルがとれている場所に設置すること。
- ・ 通路幅は標準（600mm）、ワイド（900mm）程度確保すること
- ・ 双方向通行可能であること
- ・ 1通路あたり通常約25人/分程度の通行能力を有すること
- ・ 本体寸法がW150mm×H1100mm×D1250mm程度であること
- ・ ゲートフラップのスケジュール制御についてオプションにて対応可能であること
- ・ くぐり抜け、飛び越え検知センサーを備えること
- ・ 共連れ検知機能を有すること
- ・ 残留検知センサーを有すること
- ・ 車椅子使用者が車いすとゲート本体の間で手を挟まないためのバンパーゴムをワイド通路用に設置すること
- ・ スロープ（1/12勾配）を標準、ワイドサイズで用意すること
- ・ 通行表示は矢印表示にすること
- ・ 火報連動にすること
- ・ 既存の入退館管理システムと連動すること
- ・ 不正な共連れ通行の場合、フラップを閉じ、チャイム音で知らせること
- ・ フラップはポリウレタン素材を使用すること
- ・ ゲートの電源は渡り廊入口最寄の壁コンセントより給電すること
- ・ 既存の視覚障害者用誘導ブロックの撤去に関し別途手配するが、作業について協力すること
- ・ フラッパーゲートにカードリーダを内蔵すること。

6. 発行するFelica ICカード概要

- (1) ICカードの規格はFelicaとする。枚数は 700 枚、券種は1種とする。
- (2) カードデザインについては別途とする。
- (3) カード裏面にカードの通し番号を印刷して発行。
- (4) 研修員用500枚（宿泊棟・別館に入館可能）、来館者用200枚（別館に入館可能）
東京センター職員用200枚（既存のFelica。宿泊棟・別館に入館可能）の設定作業を行うこと。既存のFelicaについては、IDm番号（16桁）をセンターから発注者に情報開示する。

以上